

県立郷土館 青森南高でワークショップ

高校生が考える未来の博物館とは。耐震性能不足のため休館中で、移転を含めて検討している青森市の県立郷土館は7月、新しい博物館の構想作成に高校生の意見を取り入れようと、同市の青森南高校でワークショップを行った。生徒からは「子どもから大人まで楽しめる体験の充実を」「気軽に利用できる飲食エリアを整備してほしい」など多様な意見が出た。

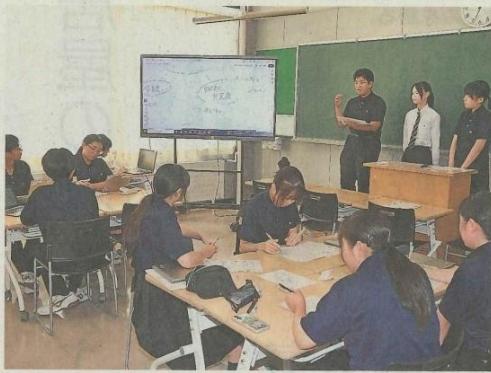
(工藤俊介)

「体験型活動充実を」「飲食エリアほしい」

生徒から意見続々

ワークショップは①博物館施設、博物館や学芸員に興味がある機能や学芸員の仕事を知る。ある1~3年生約20人が参加
②資料保存や梱包など学芸員として、郷土館職員と同校教諭がの仕事を体験③未来の博物館講師を務めた。

発表一をテーマに計4回実芸主査は、同館は県内唯一の



未来の県立郷土館について
意見を発表する生徒たち

そうに観察する生徒たち
ヒラメなどの標本を興味深

て検討する方向となつた。

しい意見も。一方で「郷土館は若い世代の認知度が低いので、SNSを活用した積極的な発信が必要」という厳しい意見もあった。

櫻庭美貴子さん(普通科2年)

は「若い世代はSNSを使

う人が多いので『友達に教

えたい』と思うような魅力的

な展示をすれば『自然と人が

集まる場所になるはず」と指

摘。工藤未鈴さん(グローバ

ル探研究科1年)は「夜に開館

する『ナイトミュージアム』

などのイベントを企画され

ば、多くの人に何回も来ても

くなるようなおしゃれなグッ

ズやエリアを作つて」「仮想

現実(VR)などを活用した

体験型アクティビティを充

実させて」などという若者ら

らえるのでは」と話した。

県教育委員会は本年度、郷

土館の整備検討会議を立ち上

げ、来年2月ごろに最終報告

をまとめる見通し。同校生徒

から出した意見は同会議や県教

育長に報告される。

同館は1973年に開館し

た総合博物館で、収蔵資料数

は約10万点。新館(地上3階、

地下1階)と、登録有形文化

財の旧館(2階建て、旧青森

銀行本店)の二つの建物から

なる。耐震診断の結果、震度

6強以上の地震で建物の一部

が倒壊する恐れがあるとさ

れ、2020年10月から休館

したままとなつて。従来

は既存施設の耐震補強など長

寿命化を軸に検討してきた

が、青森市のハザードマップ

で現在地が津波浸水区域とさ

れたことなどから移転を含め

て検討する方向となつた。

東奥日報 2025年(令和7年)8月8日(金)掲載

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。